SUSTAINABLE

CAMPUS REPORT 2024

Mejiro University and Mejiro University College

目白大学・目白大学短期大学部

学長挨拶 > PRESIDENT'S MESSAGE

目白大学学長　太原 孝英

目白学園では、2024年度から第5次中期目標・中期計画の策定を行い、教育活動で教養教育やSTEAM教育の充実など「これからの社会を生き抜く力」を養成する教育課程の編成を目指しています。「これからの社会」とは、将来の見通しの立たない混沌とした社会ということではなく、SDGsで掲げられた「持続可能な社会」であって、そこで生き抜く力をつけるということは、その実現に貢献できる人材を養成することと言うことができるでしょう。大学では「SDGs副専攻」を置いたほか、各学部でもSDGsに関わる教育・地域連携活動を実践しています。そうした取り組みの一端をこの「サステナブルキャンパスレポート2024」でご覧いただければ幸いです。

> COOPERATION & CONTRIBUTION

地域連携＆社会貢献

3 すべての人に健康と福祉を　レモネードスタンド活動

8月10日、第5回オープンキャンパスで、心理カウンセリング学科有志団体『檸檬』が、レモネード販売を行い、収益金を小児がん支援団体に寄付するレモネードスタンド活動を行いました。心理学の授業で、小児がん治療や闘病生活について学び、学生たちは、啓発活動であるレモネードスタンド活動ならば自分たちにもできると考え、消費期限間近の材料や環境に配慮した容器を使用するなどSDGsにも積極的に取り組みました。この活動は、資金の一部を大学が助成する「目白大学SPISチャレンジ制度」に認定されました。

10 人や国の不平等をなくそう　みんなで読みあう多文化絵本

5月18日、子ども学科が主体となって実施している地域連携事業「メジカフェ」の一環として、當銘美菜専任講師が国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金の助成を受け、「みんなで読みあう多文化絵本」を開催しました。近隣の学童クラブの児童や地元の小学生1年～4年生とその保護者らが参加し、當銘ゼミの学生がサポートに加わりました。友人づてにイベントを知った台湾からの留学生も参加し、子どもと大人、そして学生たちの活発な交流によって、会場からは賑やかで明るい声が響きました。

3 すべての人に健康と福祉を　脳の活性化活動 de 目白大学

2月20日、看護学科の教員とボランティア学生が、地域連携事業活動の一つとして「脳の活性化活動 de 目白大学」を実施しました。目白大学の周辺地域に生活する方を対象に、多重課題を体験する機会を作り、頭を使いながら楽しく運動すること、そして学生が参加者の安全・安心、楽しみながら参加にむけてボランティアをすることで、将来医療職に携わることへの学習意欲につなげることを目的としました。「しりとり」「トレーニングラダー」「サイコロゲーム」といった多重課題運動（コグニサイズ）を行いました。

2 飢餓をゼロに　防災備蓄品の寄付・無料配布

本学は地域のサステナブルとSDGs推進の一環として、8月17日、新宿区社会福祉協議会「食品配付会～子育て応援！フードパントリー～」を通じ、区内在住の食の支援が必要な子育て世帯に防災備蓄品を寄付しました。提供した防災備蓄品は、本学の学生の保護者が中心となって運営している教育後援組織「桐光会」から寄付されたもので、桐光会からの防災備蓄品の寄付は今年で7年目となります。7月中旬には、防災意識の向上と食品ロス削減の取り組みとして、併せて約420セットを学生にも無料配布しました。

> ENERGY-SAVING MEASURES

施設・設備の省エネ対策

目白学園では積極的に施設・設備の省エネ対策を行っています。2024年度は、新宿キャンパス図書館アネックスの照明のLED化を実施しました。これにより当施設の照明による消費電力を37.5％低減することができます。現在の学園施設全体の照明LED化率は約91.76％で、2025年度以降も継続して照明のLED化を計画しています。また、2024年度からは、新宿キャンパス10号館のGHP空調機の更新工事を着工しました。今後、3年かけて10号館全ての空調設備を高効率空調型に更新します。

新宿図書館LED照明

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

目白大学の環境対策

省エネルギー対策
- 集中制御空調システム
- 高効率型空調機
- トップランナー変圧器
- 氷蓄熱システム
- LED照明
- 人感センサー
- 昼光センサー
- インバーター式蛍光灯
- ソーラーシステム

緑化対策
- 樹木管理
- 屋上緑化
- 緑のカーテン
- 透水性インターロッキング

省資源対策
- ごみの分別
- 中水道システム
- 傘のシェアリングサービス
- 再生紙の利用

その他の対策
- 遮熱フィルム
- UVカット窓ガラス
- Low-E複層ガラス
- 全熱交換器
- 重力換気窓
- 空気清浄機
- 喫煙所以外の全面禁煙

太陽光発電

氷蓄熱システム

屋上緑化

空気清浄機

中水道システム

> SDGs ACTION

SDGsアクション

10月20日の第56回桐和祭（2日目）で学校法人目白学園エコキャンパス及びSDGsプロジェクト推進委員会主催の「SDGsアクション2024～プレゼンテーション＆ディスカッション」を開催しました。2011年度から2023年度まで（コロナ禍の2020年度を除く）12年間、「ECOアクション」として学生自らが企画する＜環境プロジェクト＞が計80件実施されましたが、2024年度からはECOからSustainabilityへと視野を広げ、「SDGsアクション」としてリニューアルしました。6団体の企画（このうち2団体は2024年度よりスタートした副専攻ゼミによる企画）が採択され、活動報告と意見交換が行われました。後半のディスカッションセッションでは、パネルディスカッション形式で各団体の代表が登壇し、真剣な質疑応答・意見交換が行われ、学科・ゼミを越えた、また初めての副専攻ゼミの間でのクロストークで交流と相互理解を深めることができました。

2024年度 採択・実施企画一覧

1. クラフトチャレンジ ～ミッションインポッシブル～（SDGs副専攻 西山里利ゼミ）
2. 販売元からロスをなくす活動 ～ピクルスでフードロスゼロ！～（SDGs副専攻 田中泰恵ゼミ）
3. 人形劇でSDGsについて学ぼう（児童教育学科 新聞委員会）
4. 一緒に外遊びマスターズになろう！（児童教育学科 渡邉はるかゼミ）
5. サスティナブルフードで結果にコミット（児童教育学科 石田好広ゼミ）
6. 新宿区と連携したエコライフ活動（地域社会学科 飛田満ゼミ）

ディスカッションセッション

集合写真

> SDGs SUB-MAJOR

SDGs副専攻セミナー

1月8日、SDGs副専攻セミナー（西山里利ゼミ、田中泰恵ゼミ、石田好広ゼミ）が合同で「成果報告会」を開催し、ゼミ生全員がその活動成果をスライドにまとめて発表しました。さらにこの報告会の発表資料に加えて、指導教員がセミナーの授業計画と活動内容についてまとめ、1年間それぞれのテーマのもとに取り組んだ、学びの集大成として『目白大学2024年度SDGs副専攻成果報告書』を発行しました。SDGs副専攻セミナーは、自分が所属する学科とは異なる学科の教員のもとで、異なる学科の学生たちとアクティブラーニングを追求する、目白大学独自のアドバンスト・プログラムです。

成果報告書

成果報告会

> SDGs ACTIVITIES

SDGs活動

3 すべての人に健康と福祉を — 子どもの支援を軸としたSDGsの探究

SDGs副専攻の西山里利ゼミでは、国内の子どもを取り巻く諸問題に着目し、自己のテーマに沿ったフィールドワークやグループワーク等により、子どもの支援を軸としたSDGsについて探究しています。2024年度は、子ども食堂のボランティアおよび運営者との意見交換、インタビュー調査の実施、HPS（Hospital Play Specialist）や保育所広報担当者の講話等を通して、子どもの支援に関する考えを深めました。多様性を受け入れる社会の実現に向けた実践の第一歩となりました。

12 つくる責任 つかう責任 — エシカル消費の活動事例研究を通して学ぶSDGs

SDGs副専攻の田中泰恵ゼミでは、エシカル消費の活動事例研究を通じて、SDGsの17目標の関係性や全体像を理解しました。2024年度は、「農を通じてwell being な社会を実現する」というミッションを掲げている農園でのフィールドワークや「プレオーガニックコットンの理解促進と活用」に取り組んでいる事業者へのヒアリング等を実施しました。その成果を学園祭で展示発表し、食品ロス削減の一助となるピクルスを制作・販売することで、学生の実践にもつながりました。

4 質の高い教育をみんなに — 人形劇を通して小学生とSDGsについて学ぶ

児童教育学科新聞委員会の学生たちは「人形劇でSDGsについて学ぼう」をテーマに、人形劇、レクリエーションやワークショップを通して、SDGsの達成のために普段の生活の中でできることを、地域の小学生とともに考えました。人形劇では、廃棄されるペットボトルや紙などを使用して人形を作りました。レクリエーションでは、新宿区の分別方法に沿って、可燃・不燃・ペットボトルの3種類のごみの分別体験を、ワークショップでは、ペットボトルのキャップを使ったストラップ作りを行いました。

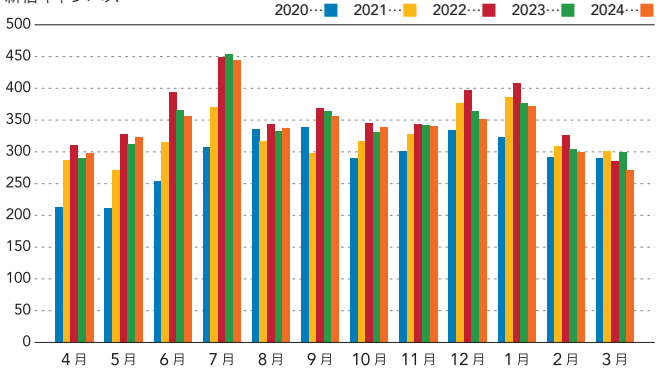
12 つくる責任 つかう責任 — 3Rの推進を通じた地域づくりとひとづくり

地域社会学科の飛田満ゼミでは、「SDGsの視点から地域社会の未来を創造する」をポリシーに、持続可能な「地域づくり」とその担い手となる「ひとづくり」を目指すプロジェクト型（課題解決型）のアクティブラーニングを展開しています。2024年度は、新宿区ごみ減量リサイクル課、新宿区3R推進協議会、新宿環境活動ネット、落合第二地区協議会と連携し、「SDGsアクションフォーラム2024～新宿区と連携した3R啓発活動と事業者の取り組みに関する聞き取り調査プロジェクト～」を企画開催しました。

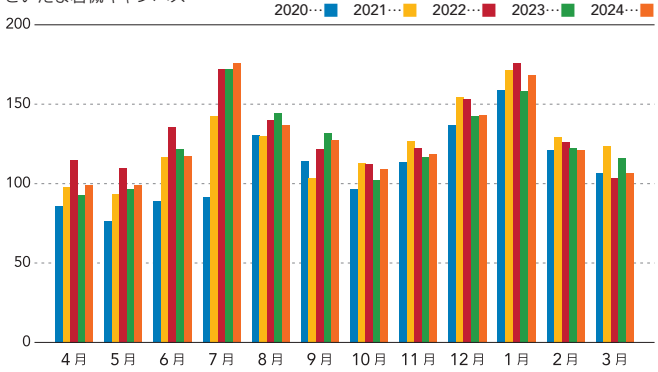
環境負荷データ > DATA

電気使用量（単位：千kwh）

新宿キャンパス

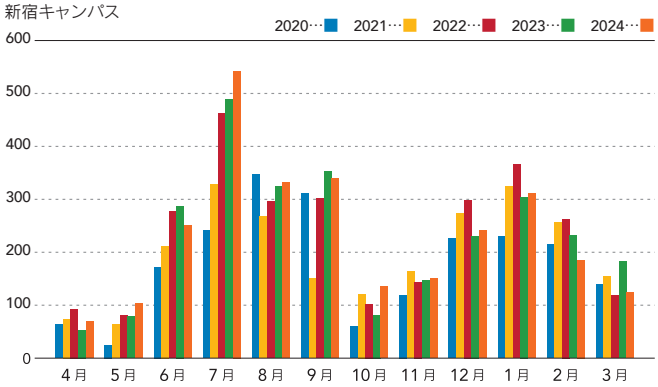


さいたま岩槻キャンパス

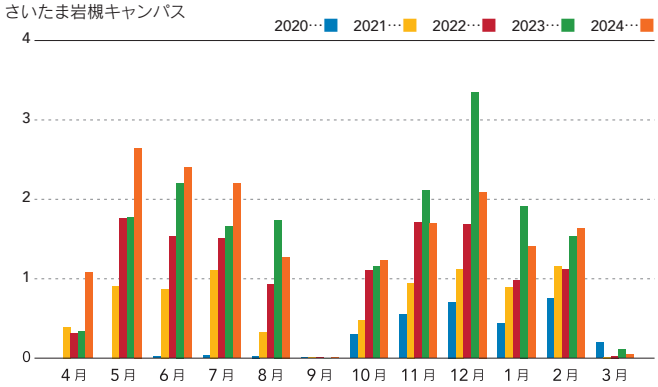


ガス使用量（単位：百㎥）

新宿キャンパス

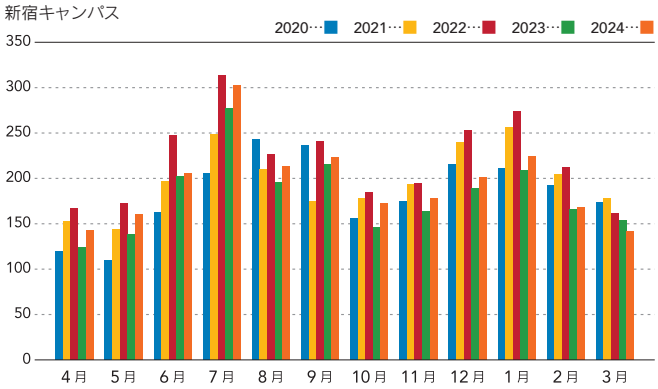


さいたま岩槻キャンパス

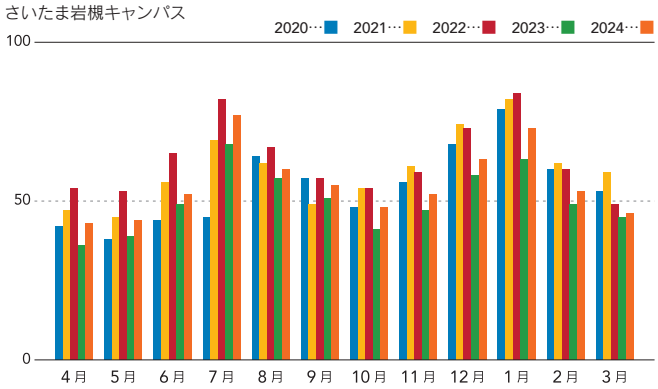


CO_2排出量（単位：t）

新宿キャンパス



さいたま岩槻キャンパス



目白大学
目白大学短期大学部

新宿キャンパス 東京都新宿区中落合4-31-1 TEL:03-5996-3117
さいたま岩槻キャンパス 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320 TEL:048-797-2222

設置者	学校法人目白学園（理事長 尾崎 春樹）	
目白大学	創設年	1994年 目白大学創設
	学生数	5,747名（2025年5月1日現在）
	設置学部・学科	心理学部 心理カウンセリング学科
		人間学部 人間福祉学科／子ども学科／児童教育学科
		社会学部 社会情報学科／地域社会学科
		メディア学部 メディア学科
		経営学部 経営学科
		外国語学部 英米語学科／中国語学科／韓国語学科／日本語・日本語教育学科
		保健医療学部 理学療法学科／作業療法学科／言語聴覚学科
		看護学部 看護学科
	大学院	国際交流研究科／心理学研究科／経営学研究科／生涯福祉研究科／言語文化研究科
		看護学研究科／リハビリテーション学研究科
目白大学短期大学部	創設年	1963年 目白学園女子短期大学創設（2000年 目白大学短期大学部に名称変更）
	学生数	381名（2025年5月1日現在）
	設置学科	ビジネス社会学科／製菓学科／歯科衛生学科

新宿キャンパス10号館

さいたま岩槻キャンパス本館・3号館

公式サイト
https://www.mejiro.ac.jp

目白大学・目白大学短期大学部 サステナブルキャンパスレポート2024
2025年11月7日 発行 学校法人目白学園エコキャンパス及びSDGsプロジェクト推進委員会 〒161-8539 東京都新宿区中落合4-31-1